

バーベキューや花火などでは「火」に注意！

夏のレジャー関連製品を正しく使い、安全に楽しみましょう。

夏といえば、海や山でのレジャーの季節。バーベキューや花火など、火を使うことも少なくありません。カセットこんろや着火剤、ガスライターなどの製品は、使い方を誤ると大きな事故につながる可能性があります。製品を正しく使い、安全に楽しく夏休みを過ごしましょう。

1. 誤った使い方によるカセットボンベの爆発が多発しています

野外での調理によく使われるカセットこんろ。このカセットこんろに装着したカセットボンベが加熱され、爆発する事故が毎年発生しています。

事故発生の主な原因は、カセットこんろの誤った使用です。中でも多いのが、カセットこんろを覆うような大きな鍋や鉄板などの調理器具を載せる使い方です。このような使い方をすると、鉄板からの輻射熱でカセットボンベが加熱され、ボンベ内の圧力が上昇して爆発につながります。このような事故は夏に多発しており、一度に大人数が火傷を負った例もあります。

カセットこんろを2台並べたり、こんろを覆うような大きな鉄板や鍋などを載せたりしないでください。熱がこもりやすくなり、カセットボンベが過熱し、爆発することがあります。



2. バーベキューの火起こしなどに使う着火剤。揮発性があるため、つぎ足しは

アウトドアでの食事の楽しみといえばバーベキューです。火起こしの際には、だれでも簡単に火をおこやすくするための補助燃料として着火剤がよく用いられます。この着火剤を、火が弱くなってきたからといって、つぎ足すことは非常に危険です。突然火が大きくなったり、火が飛び散ったりしたことで、火傷をした事故が報告されています。

また、使用後、着火剤のふたをあけたまま火の近くに放置したため引火・爆発した事故もあります。

着火剤で点火するときは十分な距離を取り、つぎ足しは絶対にしないでください。



3. 花火遊びには必ず大人が付き添って、浴衣姿は火に注意

夜を彩る花火は夏の風物詩といってよいでしょう。親子でおもちゃの花火を楽しむという家庭も多いのではないのでしょうか。しかし、毎年7月から8月は、おもちゃの花火の事故が多発する時期でもあります。

手持ち式の花火が噴射して肌に当たったり、ねずみ花火がサンダルと脚との間に入ったりしたために火傷をしたり、おもちゃの打ち上げ花火が顔を直撃して失明したりする事故が報告されています。被害者の多くは10歳未満の子供です。

浴衣は綿素材のものが多く、火がつくと一気に燃え上がります。火を使うときには十分な注意が必要です。



4. 夏に活躍する冷却スプレーや制汗スプレーに火は厳禁

暑い夏を乗り切るために、冷却スプレーを使ったり、ニオイに対するエチケットとして制汗スプレーや消臭スプレーを使ったりする方が増える季節です。

体を冷やしたりさっぱりさせたりするこれらのスプレー缶、実は火気厳禁の製品がほとんどです。スプレー缶の噴射剤として、昔はフロンガスなどの不燃性ガスが使われていましたが、オゾン層保護のため、現在は液化石油ガスなどの可燃性ガスに変わっています。

使った直後にたばこに火を付けたら、密閉空間で使用した後にライターを付けたら引火した、などの事故例が報告されています。

スプレー缶を使用する際は、火気が近くにない風通しの良い場所で使用するなどの注意が必要です。また、使用後もまだガスが滞留しているおそれがあるので、すぐに火を使うのはやめましょう。

